

いっしょにつくろう！いきものいっぱい農園

体験学習等のイベント内容

- ・自然豊かな早川町のほぼ中央に位置する三里地区では農業体験を通じて都市と農村をつなぎ、人と自然が共生する地域づくりに取り組んでいます。
- ・毎月1～2回、2泊3日で東京からの送迎バス付きの「バス活動日」を設けて、共同生活をしながら楽しく農業体験を行っています。野菜の収穫以外にも土作りやマルチシート張りなど、普段なかなか体験できない様々な畑作業をその人のペースに合わせて無理せず体験できます。
- ・また、作業の中心となる生物の多様性や生態系に配慮した「いきものいっぱい農園」は、すみかとなる草むらを残し、コンパニオンプランツを利用することで、農薬を使わず草と昆虫が共生する畑作りを実現しています。
- ・この活動には年間300人程の申し込みがあり、交流イベントには地域住民の方々も積極的に参加しています。



取組主体の紹介

取組主体である早川エコファームは地元でとれた新鮮野菜を扱う直売所「おばあちゃんたちの店」の運営や早川集落伝統の味噌造りを復活させるなど地域の活性化に取り組んでいます。

イベントに参加するには

NPO法人早川エコファームのHPから会員申し込みをすることで農業体験に参加できます。

- ・取組主体等：NPO法人早川エコファーム
- ・問合せ先（TEL）：0556-48-2817
- ・参考URL：<http://eco-farm.or.jp/>



松明をかがげ、晩夏の夕暮れ時に棚田の畦道を練り歩く♪

体験学習等のイベント内容

【田植・稲刈り体験】

・普段農作業と縁の無い都会の小中学生や、棚田に足を運ぶ機会のない地域の子供達に、棚田の存在を知ってもらおうと共に、手植えによる水の温度や土の手触り、里山の風など、五感を働かせて体験してもらいます。

・ベテランの委員の指導により、田植えや稲刈りを体験できます。銀座中学校を始め、都心部の学校も数多く受け入れています。

【ししおどし】

・香川県小豆島 中山千枚田の伝統行事「虫送り」を参考に、同地の助言も頂きながら令和2年に初開催。竹で作った松明に火をつけ、害虫駆除・五穀豊穡を祈願して棚田内を練り歩きます。地域で長く続く伝統行事に共に育てながら、農村文化を学ぶ体験型のイベントです。



「ししおどし」

取組主体の紹介

『稲倉の棚田保全委員会』は、「日本の棚田百選」（農林水産省 平成11年）にも認定された稲倉の棚田を舞台に、棚田の保全活動に取り組んでいます。今回紹介した活動以外にも、地元酒蔵の岡崎酒造(株)と連携した「酒米オーナー」での搾りたて日本酒の直汲み体験や、北アルプスと上田市街を望む眺望を活用したアウトドアフィールド「棚田キャンプ」など、新たな取組に積極的に挑戦しています。

イベントに参加するには

随時、小中学校や保育園等から学校課外学習の申し込みを受け付けています。「ししおどし」は棚田オーナー限定のため、まずは春までに棚田オーナーへの入会を！（どちらも有料です。）

- ・取組主体等：稲倉の棚田保全委員会 オーナー事務局
(上田市役所農林部 農山物マーケティング推進室)
- ・問合せ先（TEL等）：0268-21-0053
- ・参考URL：<https://inaguranotanada.jimdofree.com/>



棚田で、
自然環境と食育学習

稲倉の棚田
学校課外学習
概要書



↑「棚田キャンプ」



姨捨の棚田「田植え・稲刈り体験」

たごと

芭蕉も詠んだ「田毎の月」日本遺産の棚田で農作業体験♪

体験学習等のイベント内容

【田植・稲刈り体験】

・普段農作業と縁の無い都会の小中学生や、棚田に足を運ぶ機会のない地域の子供達に、棚田の存在を知ってもらうと共に、食と農の重要性を学んでいただけます。

・保育園や小・中学生による体験教室では、保全団体の農家からアドバイスを受けながら田植えや収穫を体験します。地元の中学校には、姨捨の棚田を舞台に地域の活性化について研究しているグループもあります。

・近年はコロナ禍で参加が難しい情勢下ではありますが、例年保育園や小中学生の体験として年間500人が参加しており、秋には収穫祭も開催し地元農家との交流を深めています。



- ・田植え体験
- ・稲刈り体験
- ・脱穀体験

地元学校から多くの参加があり、棚田の保全に取り組んでくれています。



取組主体の紹介

姨捨の棚田は「日本の棚田百選」（平成11年）や、「月の都千曲」として「日本遺産」（令和2年）にも認定された、歴史と文化ある棚田です。また善光寺平を一望できる眺望も抜群で、JR姨捨駅からの眺めは日本三大車窓にも選ばれています。『千曲市棚田保全推進会議』では、この貴重な棚田を後世に残すためオーナー制度等の保全活動に取り組んでおり、収穫された「姨捨の棚田米」は全国食味鑑定コンクールで「プレミアム米」に認定されています。

イベントに参加するには

随時、小中学校や保育園等から田植え・稲刈り体験の申し込みを受け付けています。ご家族や会社仲間の皆様は「棚田貸します制度」（棚田オーナー制度）へお申し込み下さい。（いずれも有料です。）

- ・取組主体等：千曲市棚田保全推進会議
(千曲市役所経済部農林課)
- ・問合せ先（TEL等）：026-273-1111（内線3281）
- ・参考URL：<https://chikuma-kanko.com/>

千框棚田で米づくり体験

・静岡県／菊川市
・開催時期：通年

農業体験を通じて棚田を保全し 里山の景観を守る！

体験学習等のイベント内容

・千框棚田では、棚田オーナー制度により、春の田植え準備・田植え・草刈り・稲刈りなど年間を通じて農作業を体験することができます。また、スガイ作り、しめ縄作り、生きもの教室や茶草場農法体験、紅茶づくりなど、多くのイベントにも参加することができます。

・農作業体験やイベントでは、絶滅危惧種でもあるニホンアカガエルや在来種の植物など棚田の生きもの観察を通じて、棚田の多面的機能、生物の多様性を学びます。棚田の歴史やその役割についても知ることができます。

・この地域では世界農業遺産に認定されている「静岡の茶草場農法」というお茶づくりが行われており、これは茶草場（採草地）のススキなどを茶畑の畝間に敷く農法です。せんがまち棚田では、イベントを通じて茶草場農法について学ぶことができます。人が農業によって手を入れることで自然が守られており、棚田と周辺の茶草場には多種多様な動植物が住んでいることに気づかされます。

・千框棚田は、オーナーの保全活動だけでなく、学生の研究や企業の研修の場にもなっており、これらの活動が貴重な里山の景観を守ることに繋がっています。



茶草場

取組主体の紹介

取組主体であるNPO法人せんがまち棚田倶楽部は、「日本の原風景棚田を守り、先人の苦労を肌で感じ、子ども達に伝えていこう」と、地域の農家が中心となって、設立されました。この棚田は千枚の田んぼという意味から「千框＝せんがまち」と呼ばれており、最盛期には3,000枚もあったと言われています。この名前の由来となっている多数の棚田の復元・保全と棚田文化の伝承、地域振興を目指して活動しています。

また、静岡大学棚田研究会の学生さんたちもNPOと連携し棚田の保全に取り組んでおり、棚田活動のサポートをしています。

イベントに参加するには

ホームページ「棚田いこうよ.net」で検索し、お問い合わせフォームから御連絡下さい。

(URL) <https://www.tanada1504.net/>

年間を通じて体験できる棚田オーナーや、賛助会員も募集しています。



農村での体験と共有をテーマに持続可能な集落に！

体験学習等のイベント内容

・「上三光農村環境保全・清流の会」は、農家の減少・高齢化で耕作放棄地と獣害が増えた状況を改善すべく、集落に人を呼び込むことを目指し、地域資源を宝と捉え、農業体験交流などを実施しています。

・同会は、田植体験や稲刈り体験のほか、獣を誘引してしまう放置果樹の対策として、柿酢作り体験を行っています。また、獣が好む遊休農地を減らすため、遊休農地で蕎麦を栽培・収穫して味わう「蕎麦を楽しむ会」を開催しています。さらに、耕作放棄地をビオトープに再生し、そこで生きもの調査などの体験も実施しています。

・これらのイベントに大学生など年間に延べ約200人が参加し、約4.5haの耕作放棄地が解消されました。獣による農作物被害額も数年前の半分以下になりました。



耕作放棄地で栽培した蕎麦を楽しむ会

取組主体の紹介

取組主体である「上三光農村環境保全・清流の会」は、上三光集落の住人が主体で、自治会・農家組合のほかNPO法人や任意団体などで構成されている団体です。農業体験だけでなく、NPO・市・JA等と共同で、都市住民を対象に獣害対策研修会を開催したり、GISを活用した集落環境診断を行うなど集落づくり全般に取り組んでいます。

イベントに参加するには

農業体験等について、団体公式のFacebookで発信し、参加を募集しています。

- ・取組主体等：上三光農村環境保全・清流の会
- ・TEL：090-5434-3185
- ・団体Facebook：<https://ja-jp.facebook.com/kamisanko/>



田植体験の一般参加者

大学生が山村と交流を持ち、都市部では味わえない体験を！

体験学習等のイベント等の内容

なんとし

・「南砺市商工会利賀村事務所」は、過疎化が進み、地域の元気づくりが急務となっていたことから、都市部大学生との交流の取組などを開始しました。

・同事務所は、都市部大学生と継続的な交流を持ち、合宿で山村体験等を行うほか、南砺市の産品を都市部各所で販売したり、共に外国人受入れツアーを企画したりしています。また、長期的に小学生の教育旅行も受け入れており、近年は修学旅行などの問合せも増えています。さらに、無農薬農業に取り組む「百姓塾」において、どぶろく体験、丸太切り体験などの農林漁業体験を実施しています。

・都市部大学生が、SNS等で情報を発信し外国人旅行者の訪問が増えました。都市部の学生と協力し土産品を開発し、都市部でのPRにより売上げが向上しています。



そば粉100%の手打ちそば体験

取組主体の紹介

取組主体である「南砺市商工会利賀村事務所」は、観光振興や特産振興の事業企画、実施等を行っています。宿泊や外国人受入れは、民宿組合を中心に行い、ハイキングや森林とのふれあい体験活動については、利賀飛翔の会や観光協会等に協力要請しています。交流活動の実施や都市部での展示会等は、都市部大学生の協力を得ています。

イベントに参加するには

農業体験等の情報をHPで紹介しています。詳細はお問い合わせください。

南砺市商工会利賀村事務所

・ TEL : 0763-68-2527

・ URL : <https://www.shokoren-toyama.or.jp/~toga/index.html>

民宿中の屋

・ TEL : 0763-68-2104

・ URL : <https://minsyuku-nakanoya.com/>



大学生が青山ファーマーズマーケットで利賀村の産品を出品